

刊夕 日四月十

常新日新聞

定額一圓五角 零售每份五分
廣告料五號十二字一圓 行金五號一圓
日曜祭日の翌日休刊
發行所 常新日新聞社
電話 八二〇
印刷所 常新日新聞印刷株式會社

成辰の覺書

漆原市郎左工門手記

平陽老人

(七)

八月朔日原ノ町滯陣同所三小隊に而交代巡邏仕候同所滯陣之米仙兵隊追々引揚夜に候得は相馬兵當方兵隊兩己相殘候本陣へ助太夫殿迄郎左衛門近藤權平罷出軍請承り同夜相止り申候
同日朝同所引揚中村城下江着其以前味岡重右衛門殿爲軍儀中村江被出同三日人撰に而小高へ繰出之處私風邪に付兼候に付永野宗助交代出兵仕候同三日中村城下危急に付怪俄人病人爲立退候に付神谷外記秋間十郎右衛門市郎右衛門世話仕小高出張不在兵隊五十人餘召連晝後中村出立仕候但二宿程人不足平士其外に怪俄人爲昇候事同日仙臺石川大和屋敷江着仕候其後同所に罷在松の井局江度々罷出御用向相勤候
一八月廿三日此度福島江出兵に付岩沼江御隱居様より爲御使罷越兵士江御意之趣申談御酒肴料被下取計申候同廿五日仙臺へ歸着
一御謝罪御歎願御使者被仰

付九月十九日相馬口江罷出候様仙臺より達に付仙臺出立漆原市郎左衛門横德之助事牧野清吉郎進藤祐輔泉藩石井武右衛門桑原政右衛門湯長谷藩土田三郎兵衛右色志津馬右三藩仙藩櫻田春三郎同道坂本宿へ着上仙重臣遠藤文七郎最初より中村へ出居候に付同人江問合候處何方へ向願出候而宜候哉相分兼候廿日朝春三郎釣師濱へ方向爲承出立跡より罷越候様申候其節長岡藩到着四藩同道同所江罷越候坂本より三里
同廿一日同所に逗留同夜

候而も何方へ出候哉不申來候に付清吉郎等泉湯長谷三藩人づゝ同道中村江出候途中互理伊達藤五郎家來鷲尾右源大桑島孟之助に面會一緒に罷出中村に遠藤文七郎 櫻田春三郎居合周旋に而宇和島へ

と兩人出る石母田御歎願書内見致兵器悉差上之文字書入明朝持參可致其節取次差出候趣申聞候同廿四日市郎左衛門清吉郎服紗小袖麻上下着用泉湯長谷三藩一緒に館内江被出候處御歎願同人取次に而御使番磯部鹿之進殿、澤四兵衛殿西直八郎殿列席におゐる差出候間扣居候様被申聞無程石母田より御歎願書參謀衆被請取御總督府江被差出候間仙臺城下江引取待居候様被申聞候間同夜出立岩沼驛に味岡重右衛門殿神谷外記室衛平止宿に付申述仙臺石川屋敷江着仕候

【朝】ひたし：小松菜 ひたし かくしからし
【晝】焼肴：生鮭 大根おろし
【晚】わん：里芋 初茸 小口人蔘 すゝめ栗 (ぎゆす(すまし仕立)

玉田貞一郎其外江歎願に付周旋相頼申候然る處參謀衆互理に繰込に相成候間當方江願達に而は差越に付互理に引戻差出候様申聞候夜中釣師濱出立山下江一泊九月廿三日互理江着鷲尾右源大宅江出候處玉田貞一郎旅宿江參候様申聞候に付罷出玉田に面會相頼候處承知に而願書爲見候處實効之廉相見候には兵器差上之文字加へ候方可然猶仙臺重臣石母田但馬共談合之上沙汰可致旨申聞候無程石母田より呼に參候間三藩同道館内江出候小山又右衛門不快に付不出牧野清吉郎

十月五日甲辰八白大安危日【白】金には縁のある日なれど望星に奔走して凶を醸す勿れ東西凶なり【黒】病氣怪俄紛失盜難に注意して家内に鍵を起す勿れ未申と丑寅凶【三碧】骨折りて功の苦勞は明日の樂しみ南北凶【四綠】外見良く内心に出費の苦勞あり水火の難に注意南北凶【五黄】病氣怪俄紛失の凶を聞くなれば萬事注意未申と丑寅凶【六白】金談縁談望事皆進んで吉但し宴酒と口舌を醸す勿れ東西凶【七赤】望事達するか給料昇るか目上より信を受けるの吉日なり戌亥と己辰凶【八白】大凶の日子古き事件でゴタ／＼する勿れ又隠し事發見して辱を受ける勿れ【九紫】我が望事の緒を得る大吉日又營業上奔走して利を得るの大吉日戌亥と辰巳は凶なり

門專 科病柳花 院醫科外村木
際橋目丁五町平 九三話電
出前持 各々一三三名
見習 右大至急入用
平町二丁目
魚清食堂 電六三三番

品質第一
電話二六八番
平搾乳所
平町・九品寺前

服小倉黒 賣出し
小學生 中學生
上等品 特製A
一圓六十錢 三圓五十錢
紺ヘル 三圓二十錢ヨリ
平町 正札堂洋服店 電話三

看護婦急派 の求めに應じます
平町南町 平看護婦會 電話三〇七番
毛糸
今年度新色全部揃へました。何卒御来店下さい。……。
合名 會社 ハシモトヤ糸店 平・田町 電話十四番

この學校は懐かしい

篠山 第一 新校長が語る

以前同氏の植えた樹が

今も青々と繁るを見て

と懐し氣に校庭を見やり つゝ語つた

昨日着任された平第一小學校長篠山廉氏は本日は早くから登校し新校長を迎へて喜ぶ全校児童に新任の挨拶を終へて事務引継ぎを了し直ちに各官衛其他挨拶廻りをしたその前の時間を利用して校庭に自動車を待たせて

「自分は十三年間も朝夕接した本宮の教へ子達と別れるの、辛さと濱通り第一の大校である當校長として果して其任に耐えるかどうかを心配の餘り今回の轉任は餘り氣が進なかつたのでしたが平驛に着いた時皆様の親切な出迎へを受け又類齡の老婆が涙を流して喜んでくれたのを見て急に氣分が引緊りました自分は元々此の前身學校の卒業生で然も教鞭を取つた事もあ

る關係上學校には非常な懐し味を覺えますその一つとして自分が教鞭を取つてゐた時庭園掛りを命ぜられ其際植樹した櫻やボブラの木が未だアノ通り元氣よく繁つてゐます今度は教育者として最後の御奉公ですから誠心誠意まつしぐらに勤める考へですから何卒宜し

縣知事初巡視

けふ來平して

知山本縣知事は石城双葉兩郡初巡視の爲本日午後零時五十五分平驛着磐越線列車にて來平直に警察署、税務出張所、土木監督所、訓育院、蠶業取締所、女學校裁判所、八幡神社、上水道中學校、小鐵倉神社、片倉

磐城訓盲院視察に

宮内大臣官房總務課長來平

本縣社會事業施設視察の爲來縣した宮内大臣官房總務課長鹿島雄氏は來る四日來郡川前村で巡迴診療班の實況を視察して來平住吉屋本店に一泊の上翌五日磐城訓盲院を視察して相馬郡へ向ふと

江名組合

低資申請

石城郡江名漁業組合では過般協議の結果事業擴張の爲め四萬四千圓の低利資金借入方を二日大藏農林兩省に申請した

各級對抗

野球戦績

昨報磐中野球部に於ける各學年クラス對抗野球試合は昨日放課後行はれたが戦績左の如く一年一組及び二年五組が勝つた

- 一ノ一 9 - 4 一ノ四
- 二ノ五 6 - 3 二ノ三

磐中美術出品

美術部では今月中旬安達中學の創立滿十週年及び相馬各々催される縣下中等學校成績品展覽會に左の如く出品すると

- △安達(高場)一年名尾卓朗(炭礦)同渡邊和夫(風景)二年松田浩一(構内)同小松明(生家)三年箱崎彰(劍道具)同伊藤義(風景)四年鈴木五郎(静物)同柴田外面二(煙草盆)五年小幡桂二(收穫)同廣澤榮太郎(風景)一年高階文三(盛夏)同渡邊和夫(土藏)二年北野正明(港)同柴田朝雄(窓側)三年小野忠一(風景)同箱崎彰(魚水場)四年猪狩和之進(機關庫)同菊地光圀(路上)五年廣澤榮太郎(雜祭)同佐藤文雄

林野更新

試験實施

平營林署管内の林野天然更新試験實施の爲め來郡中の東京營林局河田技師は去月廿七日以來去る二日迄の六日間亘つて上小川村字戸渡官行所代事務所方面を調査實施中であつたが二日終了したと

大野生柿出荷

郡大野村農會は本日午後一時より村役場に於いて役員會を開き柿出荷に就い

四倉の繭市況

繭市場に於ける昨日の取引数は千八百九十貫七百二十匁、最高四十三圓二十錢、最低三十六圓五十錢、馴四十圓七十錢

常設館たより

■平館 日活現代劇山本嘉一、高津愛子、宇留木浩主演「一本杉」日活時代劇大谷日出夫、山田五十鈴主演「曠野の果」獨逸トビスオールスターキードロテアウイック、ヘレタティーン、エミリアアラング主演「制服の處女」
■世界館 新興時代劇結城重三郎主演「武州の双龍」新興時代劇鈴木澄子、木村正二郎主演「戀慕吹雪」新興現代劇鈴木傳明、佐久間妙子主演「銀嶺富士に甦る」五日より

平町人事

△録田町五六武藤喜悅氏長男幸悦
△新川町三當時水戸市裡三丁目千三十三丹野藤一氏二男優
△研町一八草野清次氏長男正

美味で！
評判の……
イワキ
サロン
電 352

かまぼこ製造
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

三井タタシ
平町二丁目 電話六八五番

確實親切は
正木織物店ノ生命也
絹織物ノ正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため
二割引にて大々的勉強御註文
に應ず
御註文ノ時へ(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス
平町字新町貳貳番(公園下)
白生地 質織販賣 正木織物店

門 專
婦 産
花 柳 病 科
柳 病 科
井 坂 醫 院
◎入院隨意
平町田町 電話五五九番

活況の炭礦に此慘事

振り落されて

二名が惨死

昇降機が岩壁に衝突した機みで

昨日午前十時頃石城郡好間村古河炭礦の排氣堅坑で労働者七名が地下千尺の坑内よりバケットと稱する昇降機に乗り上昇中八百尺の高さに至つた際突然バケットが岩壁に激突し傾斜した

落磐に襲れ

二名死傷す

石城郡内郷村磐城炭礦金坑で昨日午前九時頃作業中であつた坑夫相川久治郎(三)同く廣野智(三)の兩名は突然落磐に襲はれ相川は即死、廣野は頭部其の他に全治三週間を要する重傷を負つた

日雇労働の紹介

五千五百八十件

去月中の紹介所成績

平職業紹介所去月中の取扱介成績は求人が男三三八、女十六、計五百四十四名、求職は男六十一、女十五、計七十六名でそのうち就職したのは男二十二、女八、計三十名、此外日雇労働者の紹介

上遠野青年團

石城郡上遠野村青年團では来る八日午前九時より同村小学校に役員會を開き秋季運動會開催の打合せを行ふと

鹿島校運動會

石城郡鹿島小学校では本日午前八時より校庭に於いて秋季

日雇人夫の

失業者少く

大量の申込み

職業紹介所が手古摺る

夏井川改修事務所より二百名の周旋方を平職業紹介所に申出たが現在では各村共匡救工事真最中であり農繁期も迫つて居る事として日雇人の失業者は餘り少くないので同紹介所では此の狩集めに弱つて居ると

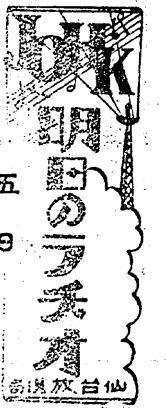
平町衛生

大掃除

七八日の兩日

平町の秋季衛生大掃除は来る七八の兩日執行と決定したので町役場では明日衛生掃除の注意書を全町に發するが各町の日割左の如くである

- (七日)北白銀 立町 大工町 三丁目 新川 仲



今晚も明日北東の風晴曇半す

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「月の世界」水野良平
- 後六、二五 講演 横須賀鎮守府司令長官海軍大將野村吉三郎
- 各局合同「中秋夕月の夕」
- 後七、三〇 滋賀縣石山寺より中繼

明日の部

- 後七、五〇 A「銀座の月」(銀座三越屋上より)
- 後八、一〇 V「大沼湖上の月」(函館市外大沼公園より)
- 後八、二五 H「宮城野の月」(仙臺市宮城の原より)
- 後八、四〇 N「田毎の月」(長野縣更級郡娘捨山放り)

明日の部

- 後八、五五 J「七戸」趾城山の月(石川縣七尾灣七尾丸より)
- 後九、一〇 G「太宰府の月」(福岡縣筑紫郡永城村都府樓跡より)
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告
- 前九、一〇 料理献立
- 前九、三〇 家庭講座
- 後九、〇五 映畫物語「母

石森山で

平商が演習

平商五年生徒約四十名は明日午前八時より石森山附近で駒場配屬將校及び麻原、矢野兩教諭指導の下に輕機關銃を使用し發火演習を行ふと

新川端の櫻樹に

稻架け絶対禁止

平署が嚴重に取締る

改修後の新川土堤に美觀を添えた櫻並木は櫻樹保存會の肝煎りであり其後の根付きよく元氣な樹枝を四方に伸ばして居る無自覺な農人が稻刈り後櫻樹に稻架けをする様な事があつては折角の培養苦心も水泡に歸し櫻樹は遂に枯死するかも知れぬと心

輕機關銃

磐中に寄贈

磐中に於ける今春卒業生及

裁判所たよりの

△石城郡勿來町出藏炭礦八炭礦坑夫松岡開野(三)は後備陸軍歩兵一等兵であるが簡閱点呼に應集せず陸軍召集規則違反として科料十圓

平職業紹介所報告

- △外交員 四十五才 尋卒
- △四割給す(平町某)
- △倉働 三十才 尋卒 月
- △十圓(平町某)
- △仕上工見習 十八才 尋卒
- △仕着小遣(平町某)
- △豆腐賣子 三十位 賣上の二割外面談(平町某)
- △回職を求める方
- △洋裁見習 二十才 尋卒
- △給料面談(好間村某)
- △行商人 二十四才 商卒
- △給料面談(平町某)
- △事務員 二十三才 佐賢
- △二修給料面談(平窪村某)
- △給料面談(平町某)
- △給料面談(平町某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第五十六回 血に飢ゆる村正

歩いて行く荷物

或晩の事で店を早くしまつて家の者を手許へ呼び酒の支度もして置いて

鐵「サア今日は皆な緩くり飲んで呉れるが宜い、次郎やお前は酒が嗜だ大きなものでやつちやア何うだ」

次「親分何でございませうか今日は祝ひ事でもございませうか」

鐵「別に祝ふ事もねえが少うしお前に話をする事があつて夫で今日は早仕舞にしたのだから職人は居す家中でやつて居る田舎蕎麥屋、お前が萬事して呉れるので先々月から職人も断つた位だ、然し小松原の有益さんに知れると家の伴を蕎麥屋職人に使つて呉れずとも思やアしなからうかどうも俺が気が済まねえ、辛抱して居なさいやア小松原有益の跡を繼ぐお前を、心柄とは云ひながらそば屋の釜前に立たして置くのを済まねえと思つたから夫で實は相談をするのだ」

次「親分串刺事つちやア往けません、私が勘當をされて行所のねえものを御世話をして下さるのを親父、阿母が何で悪く思ひませう、

然んな事を仰しやらねえでどうか長く置いてお呉んなせえまし」

鐵「次郎お前知つてるだらう小松原で淺右衛門といふ百姓があつたが」

次「エー私の幼さい時分でございませうがアノ淺右衛門



門の伴は私の友達でございませう」

鐵「淺吉といつてお前から見ると年は七八ツ上だが彼奴も博奕で溜つて了ひ、親父が死んだ跡は丸で片なしになつて俺が手紙を附けて

辛抱をして居る内に親父の方の詫もしてやらうと思ふが何ういふものだ」

鐵「大体にしたらばつくれて置きねえ家のおきくをつれてつて呉んねえ」

次「エエお菊さんは江戸見

に從ひ集鴨の淺香町とかいふ所へ参りませう」

鐵「さうしねえ、餘まり近所にあると小松原に聞えても宜くねえから明日立つとするが宜い」

次「そんならさう致しませう」

鐵「是れは少ねえがホンの路銀の印だ」

と用ダンスの抽斗から取出した二十五兩次郎吉の前へ置いたので次郎吉も驚きました

次「親分是れやア買物でもあるのでございませうか江戸へ行くと云つても三分か一兩ありやア行けるといふ事を聞いて居ります此んなは澤山お貰ひ申しちやア濟ません」

鐵「アア持つてきな幾らあつても邪魔にやアならねえ」

次「どうも何とお禮を申しませうか」

鐵「就ちやア行く時に何卒荷物を持つて行つて來んな」

次「ヘエー大きなものでございませうか」

鐵「其んなに大きくもねえが、懐や袂へは這入らねえぜ」

次「どんなものでございませうか」

鐵「ナニ歩かして行けば宜いのだ」

次「ヘエ歩かして行きますか」

鐵「大体にしたらばつくれて置きねえ家のおきくをつれてつて呉んねえ」

次「ヘエお菊さんは江戸見

物でございませうか
鐵「馬鹿アいつちやいいけねえよ、疾うから汝と好い仲間になつて居る事は俺も目明した、確と知つちや居るが若い者同志で出來た事を冤や角いつても仕方ねえ、娘を頼んでやるから二十五兩持たしてやるのだ」

次「エー夫ちや知れませうか」

鐵「とうから知つてるんだ婆さんお前も聞く通りの事だから其のつもりで錢別の些ともやるがい」

と云はれて鐵藏の家内おとわ

わ「次郎や終々締めたね」

次「どうも姐さん濟みません、全体私の方から云つたのぢやございません、お菊さんの方から……」

鐵「馬鹿アいふない兩親の前で然んな事を云つちや可愛想にお菊の顔のむけ所がねえ」

次「是りや濟みません」

菊「黙つて聞いてりや次郎さん大低におしな前の方から何して來たんぢやないか」

鐵「何方がどうでも宜いぢやねえか」

次「夫ちやア私の方から這入つたと致して置きませう」

と至つて氣輕な次郎吉故果は笑つて了ひました。

御愛乗下さい
シボレーに！
そは先驅者なり

Advertisement for '玉屋洋品店' (Tamaya Yōshin-ten) featuring a man in a suit and the text '平町田町通電話六五六番'.

Advertisement for '安齊外科醫院' (Anzai Seikei Hospital) listing '外科 X 光線科' and '性病科' with the address '平町田町' and phone number '電話四七五番'.

Advertisement for '松茸料理' (Matsutake Cuisine) at '住吉屋本店' (Sumiyoshiya Honten) in '平町字紺屋町' (Hei-chōji Konnaya-chō). It mentions '御華容様本位の弊店で今回「ひな鳥水たき」' and provides a phone number '電話一五九番'.